

## 俺のヒラメ

Fishery Conservation Zone



岡田 次雄さん  
漁師



ヒラメ用の水槽

ヒラメの養殖をはじめてからもう6年になるが、最初の1、2年はひどかった。設備が不十分で海がシケる日に眠れない日が続いたもんだ。ヒラメを育てるために海水をポンプアップしている。海がシケると水があがってこねんだ。停電になってポンプが止まったときもあった。翌朝行ってみると140枚のヒラメが白い腹を出して全滅してた。悲しかったねえ。機械の故障が原因で、水槽の中が酸欠していたこともあった。その時は150枚のヒラメを死なせちゃった。気がきでなくて、まる一日作業場で過ごしたもあつたな。今は活魚ブームも下火になったし、輸入物に押されている。こっちは値が高いからかわねえや。だけどヒラメはめんこいよ。

何を考えているのかわからない人間よりずっと付合やすい。ヒラメは中立で敏感だけど神経質な魚なんだ。エサを与えるときも、俺以外の奴がやると食わねえし、白っぽいものを着ていると驚いて寄りつきやしねえし逃げ回る。けど、人間みていに仕返ししないし、へりくつもねえ。めんこい奴ばかりだ。エサをやると「バクツ」と食べに来るときが一番めんこい。1日に2回から3回エサをやりに行くが、3、4日バカ食いする時もある。食えば太るし値も上がる。だが、市況がらみで売るのが大変だ。地元じゃ活魚は引き取ってくれない。鮮魚しかだめだから、どうしても札幌のせりに掛けるしかねえ。ゆるくねえが、これからもヒラメと過ごすぞ。

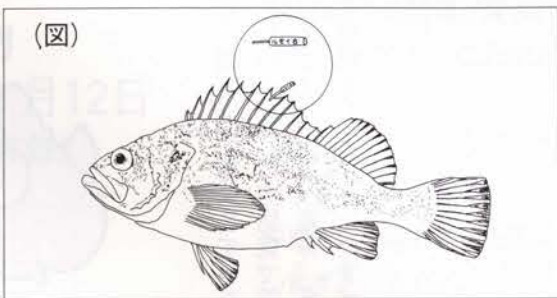


## 海をクロソイでいっばいに

Fishery Conservation Zone



榎 昭博さん  
留萌市役所職員



標識クロソイ見つけたら教えてね!

ヒラメ、ソイ類、カレイ類は年々減少傾向にあり、水産資源の増大が叫ばれていました。そのため、留萌市と漁協の共同作業でクロソイの放流事業を平成4年度からはじめました。毎年、寿都町などから体長3〜4センチのクロソイの稚魚1万尾を購入して礼受町の養殖施設まで運搬し育てています。1日3回から5回エサを与え、約3カ月間で10センチほどになった稚魚を放流しています。放流する稚魚たちには、大きさや移動状態がわかるように標識を付けています。(図)

平成4年度から平成8年度まで

に約4万1千尾を浜中沖、瀬越沖、礼受沖に放流しました。放流されたクロソイは1年で1センチしか成長しないものもあれば、1年で10センチも成長しているものもあります。また、放流されたクロソイが浜益村で捕れた記録もあります。クロソイについてはまだまだ未解明な部分がたくさんありますが、留萌の海をクロソイでいっばいにするために調査・研究をしています。皆さんも是非協力してください。

標識が付いた魚を見つけたら教えてください。

## 春告魚の群来る浜を

Fishery Conservation Zone



上田 勉さん  
留萌支庁経済部水産課長



ニシンをいけすに移す

ニシンは「春告魚」とも呼ばれ、かつて昭和28年ころまで管内では年間10数万トン漁獲され、ニシンで埋めつくされた浜は留萌の漁業そのものといったものでした。その後ニシンは北の海に去ってその姿を消し、「幻の魚」となりましたが、今年に入って留萌・小平などの沿岸で100トンを超える春ニシンが漁獲されました。

港では、漁業者の顔が活気に満ち、年配の方から「久しぶりに昔の浜のようだ」と話を聞いて、ニシンは日本海の漁業者にとつてやはり浜を象徴する魚だと感じています。今、そのニシンを増やす計画として、昨年、石狩の厚田村で稚魚を14万尾放流しましたが、今年には石狩管内と留萌管内で各20万尾、計40万尾の稚魚を放流する予定です。

留萌市では、漁業者や市・漁協の協力を得ながら、港内のいけすで1日3回エサを与え、中間育成した後10万尾を放流しますが、来年は日本海全体で100万尾の放流を計画しています。

最近の漁業環境は、資源の減少や漁業後継者も少ないなど厳しさを増しておりますが、このニシン放流事業が日本海の漁業振興の大きな柱となることを強く期待しています。

放流したニシンがしばらく港のなかにとどまる可能性がありますが、釣り人の方たちには稚魚を釣らないようにしてください。また、釣れた場合は、海に放してやってください。

浜の人にとっては、大切な水産資源ですから。

## はじめての海釣り

散乱する釣り場のごみ



釣をはじめた子供と一緒にアウトドア一気分で楽しい釣りに行った。ちなみに私は海釣をしたことが無い。

晴れ渡った空そして美しい海を思い浮かべ一路赤灯台へ、しかし、そこは悲惨な場所だった。ずらりと並んだ竿、竿、竿。そして、ごみ、ごみ、ごみ。はじめての海釣に心弾ませ、弁当を持って出かけたが、一瞬にしてイメーシダウシした。カラになった弁当箱、ビニール袋、エサのケース、空き缶、カップ類、チリ紙、ペツ

トポトル、タバコ、釣り糸、仕掛けなどが一面に散らかっている。また、丁寧にコンクリートのすきまに押し込むように捨てられたごみ。岸壁から海をのぞいて見ると、至る所にごみが浮いている。

6月号の広報紙に掲載されたとおり、汚れきった釣場は本当だった。想像した釣気分にはとてもなれなかった。

身のまわりのごみはある程度拾ったが、ばかばかしくなったし、釣果も無かったため早々に切上げた。

ごみは持ち帰りましょう。

**FISHING MANNERS**

釣りのマナー 守りましょう

Zing 7